ゴシップ

多田龍介

◆目次

どうぞ 6
ゴシップ 8
家終い 10
デトックス 12
破談 14
芸術家 16
薬 18
ＡＩ哀歌 20

言の葉 21
素朴 22
自立戦線 24
弁明 26
底打ち 28
太鼓持ち 30
探究者 32
あとがき 35



どうぞ

犬猫は可愛いという
裏で何頭
殺処分されていることか

ニュースの導入の
動物動画などを見ると
犬に優しい殺人鬼を思ったり

人間のことも
大事にしてやってください

人は可愛い、可愛いもの
可愛いかぁ？
可愛くなんかねぇよ

気持ちはわかる
が、そこは堪えて

だから僕は
一枚五万のステーキを
自信を持って
食おうと思う

いや、五万もしてないから
せいぜい二千円弱だから
堪えてつかぁさい

ゴシップ

モブっていうのは
どうしてあんなに
犯罪の話が好きなんだぜ？

彼らから
下世話なゴシップを取ったら
何も残らないのだ

しかし彼らは
臭い話を
半分愛していたにすぎない
本物は
もっと臭い

嗅(か)げないわ～

鼻が曲がるわ～

そんなあなたの受け皿は
テレビにネットに
溢(あふ)れるほどに

わかったら
臭い話に別れを告げて
清く歩いて行こうよぅ

家終い

本を捨て家電を捨てて灰になる

断捨離で私を生まれ変わらせて？

ごみ屋敷だっただろうがおまえん家

誠実にやれば結果はついてくる

そんなにも幸せだったと息をつく


ステップアップ Step 49
荒川純子
第二詩集

デトックス

体調が悪い時には
休まなけりゃならないよ

なぜ体調が悪いかと言や
僕がバカだから

そうでしょう、そうでしょう
休まなけりゃならないよ

隊長が悪い時には
怒らなけりゃならないよ

怒れないとは君の伝
上官の命令は陛下の命令？

しかし果たせるかな
今、君、怒れり

休んだら
明日も元気に頑張ろう

破談

茶目っ気のある
媚(こび)を含んだ笑みで
私を見る
首相（婆）
やめてくれ、と

これが日本の
成果です
何の成果も
得られませんでしたっ
泣きたまい

美人は三日で飽きる
ブスは三日で慣れる
三日もあれば
死人も生き返る
はずだった

芸術家

芸術家は危険ではないと
思われていた

もう世を脅かす芸術は
出て来るまいと

だから芸術家を
ゆるく飼っておいた

僕を見るまでは

今、芸術家
危ない人しかいな……
そんなこともないが

僕の好きな本のレビューに
「当時世界を震撼させた本だぞ
読んでおいて損はない」とあった

父に
「震撼させるようではいかん」
と言われた

そうね
もちろん
社会と敵対する者ではございません

薬

君たちは
飲まなかった場合を
試すことができない
己らの不安のばかりに

飲まなかった場合を
試すにしても
ダメになるぞとの
プレッシャーをかけ続け
ほら、ダメになった
この結果だけを得たい

飲んでいるということは
服従の証です
それだけを得たい

飲ませ続けることの
弊害は
もういやというほど
出ているのに

これは止めなければ
未来はないという
ほどだ

ＡＩ哀歌

立ちんぼの前にメンヘラだったのだ
ミソジニー、女の色香はまだ有効
ロボットの軍事利用をやめなさい
使おうよ、ダッチワイフにＡＩを
壊滅だ。人の知性は壊滅だ

言の葉

人は皆、弱く生まれて強くなる

誰ぞ知る、また弱くなるそんなこと

最初期の怖かっただろう大人のこと

問題は弱ったときにどうなのか

賢さもバカさも揺れる葉のような

素朴

当り障りのないことを
当り障りのないように書き
当り障りなく忘れられ
さういうものに
私はなりたい

テレビ・ラジオへ
盗聴・盗撮
してたんでしょう?
だって態度
変だもん

まぁ、待てと
そんなことは
しませんと、いい
でも、態度変なの
直らないよ？

自立戦線

子供たちへ
守れなくてごめん、とはある

おっさんたちへ
守れなくてごめん、とはない

なんという人権の侵害であろう

おっさんたちは
かつて守られない子供だった

たぶん
子供を食い物にしている者の
常套句（じょうとうく）なのだ

僕はせいぜい
自分一人分
守れればいいんで

アデュー、デュワッ

弁明

それは喜びプライスという記事への
反感から書かれたポストだった

何たる手前味噌かという非難だった
しかし手前味噌でなぜ悪いかと

誰も褒めてくれないのなら
自分で自分を褒めるしかない

そういう趣旨の
しかし僕を褒めてくれる少数はいた

これが無礼を生んでしまった
地道な支持固めというならある

僕が描いていたのは
猫も杓子もりゅうさん、これ

いくらか誇大妄想的なんだろう
しかし評価と実体の乖離(かいり)はあった

底打ち

人生をリセットしたいという人のリセットボタンはやはり股間に？
知恵のある猿たる僕は脳にある。アルコールにてシャキーンとは
借金がないだけましじゃないですか。底の話はもうやめてたも
やがて来るそれは必ずやがて来る終りを思いつ今日、作る飯
悲しいか、わりと救いのない感じ？　今は楽しい、それだけ抱いて



太鼓持ち

僕らはもう
絵に描いた餅のような話からは
足を洗いたい
リアルの餅が
食えない時に

トランプにも
評価すべき点はある
ありのままの
自分見せているからだ
ありのままダメだろう

しかしここに
お気持ち表明だけで
リアル餅も米もある
焼き討ちされるかも
喉詰まらせないでね

探究者

僕は
十背景があることを
一くらいしか話さないと
書いたことがある気がする

これはまずかった

一は表面、結果だけだ
対し
九は根拠だ
言葉を尽くす価値がある

というのは
一だけでは
ついて行っていいのかどうか

判断できないからだ

しかし
九を述べる能が
ないのであった

学者の仕事は明白である
九を掘り起こすことだ

あとがき

この小冊子は二〇二六年九月、十月にネットに投稿した詩、十五編をまとめて編まれた。

秋のころである。表紙は菜の花の写真を使ってしまい、きれいだから使ったのだが、これは春の花であろうと少し考えた。しかし暮れゆく国で、人々の心は（なぜか）春のようであったのだ。というように見えたので、これでもいいかと思っている。いや、暮れていくのは僕一人なのかもしれない。

詩にもいくらかいつでも、いらだちや失望が見えていて、それでもまだ致命傷にはなっていない体である。無礼があったら許してほしい。

それでは、読んでくださった方に感謝を込めて。

二〇二六年十月二十二日　　多田龍介

ゴシップ

令和八年十月二十五日　初版発行

著　者　多田　龍介
発行者　多田　龍介
発行所　明水工房

©Ryusuke TADA 2026